

ポスター | 1-18 川崎病・冠動脈・血管

ポスター

川崎病・冠動脈・血管⑤

座長:佐野 哲也 (さのこどもクリニック)

Fri, Jul 17, 2015 1:50 PM - 2:26 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

II-P-142~II-P-147

所属正式名称: 佐野哲也(医療法人橘甲会 さのこどもクリニック)

[II-P-146]当院で急性期治療を施行した川崎病再発20例の臨床的検討

○小林 奈歩, 清沢 伸幸, 木村 学 (京都第二赤十字病院 小児科)

Keywords:川崎病, 再発, 冠動脈障害

【背景】川崎病全国調査で再発例は約3.5%であるが、初発時に比べて重症化するとの報告もある。当院では9年間に20例の川崎病再発例を経験したので報告する。【方法】対象は H18年1月～ H26年12月に当院で川崎病初回及び再発時の急性期治療を施行した20例。診療録を用いて性別、月齢、入院病日、IVIG投与病日、有熱日数、検査値(入院時の白血球数、ヘモグロビン(Hb)、AST、ALT、LDH、T-Bil、Na、CRP及びIVIG投与後のCRP)について後方視的に検討した。【結果】性別は男11例、女9例で、川崎病患者総数501人中、再発例が4.0%であった。罹患月齢は初回が 15.6 ± 20.8 ヵ月、再発が 37.8 ± 10.6 ヵ月、再発までの期間は 22 ± 20.8 ヵ月であった。入院病日は初回が 3.8 ± 0.9 日、再発が 3.6 ± 1.1 日であり、全例に対して初回、再発ともに第5病日以後にIVIG2g/kgを施行した。IVIG投与開始病日は初回が 5.3 ± 0.4 病日、再発が 5.2 ± 0.5 病日で、投与開始時の群馬スコアは初回が 2.6 ± 2.0 、再発が 3.5 ± 2.7 と再発時が高いが有意差は認めなかった。有熱日数は初回が 6.3 ± 2.5 病日、再発が 7.1 ± 1.4 病日と有意差を認めなかったが、IVIG投与後解熱までの日数は初回が 0.9 ± 2.6 日、再発が 2.1 ± 1.5 日で再発時が有意に長かった($p=0.046$)。IVIG再投与を必要とした症例は初回が4例(20%)、再発が2例(10%)であった。冠動脈病変は初回は全例異常を認めなかったが、再発は一過性拡大を1例(5%)に認めた。検査値は、投与前のCRPは初回が 9.76 ± 5.23 mg/dl、再発が 11.69 ± 8.86 mg/dlと有意差がなかったものの、投与後のCRPは初回が 3.85 ± 3.36 mg/dl、再発が 8.83 ± 9.95 mg/dlと再発時が有意に高値であった($p=0.01$)。Hbも初回が 10.5 ± 1.5 g/dl、再発が 11.2 ± 0.8 g/dlと再発時が有意に高値であった($p=0.018$)。【結論】川崎病再発時はCRPが高い傾向があり、IVIG投与後もCRPの低下や解熱までに時間を要するが、後遺症としての冠動脈障害は認めなかった。